

◆授業のポイント◆

- ・ 新たに設けられた言語活動例（鑑賞文）のための指導法の工夫
- ・ 学習が生活に生きることを実感させるための場の設定の工夫

国語科学習指導案

日 時 平成21年5月29日（金）1校時
学 級 2年1組（男子19名 女子18名 計37名）
授業者 教 諭 霜 田 さおり

1 単元

作品から自分の考えを広げよう 教材名 「小さな手袋」「鑑賞文を書こうⅡ」「考えを伝えよう」

2 単元について

本単元では小説教材である「小さな手袋」と特設した表現教材「鑑賞文を書こうⅡ」「考えを伝えよう」の学習を行う。まず、「小さな手袋」では作者の人物設定の意図や物語を象徴するものの意味、物語の構成などの分析を通して作品鑑賞の視点と主題のとらえ方を習得する学習を展開する。また、「鑑賞文を書こうⅡ」では、提示された芸術作品を分析し、主題をとらえ、それに対する自分の考えを文章にする学習を行う。更に、「考えを伝えよう」では、主題に対する自分の考えに資料や体験などの具体例を付け加えながら分かりやすく話し、また自分の考えと比べながら話を聞く学習を行う。これらの学習活動を通して、文学作品や芸術作品を複数の視点から鑑賞し、作品から社会生活に通ずる主題を見だし、それに対する自分の考えを述べることは意義あることと考える。

本学級の生徒は、学習に意欲的に取り組み、課題に対して積極的に考えようとする姿が見られる。また、話し合い活動の意義を理解し、相互に意見交換をするために、個々の考えを明確にしようとする態度も見受けられる。しかし、これまでの学習指導を通して、同じ体験をしていない相手にも理解しやすい表現の工夫や、視点を定めて論理的に相手に伝えるといった能力については十分達成されているとは言い難い。また、文字数や制限時間等の条件に合わせて作文を完成させたり話したりする能力においても習熟度に差が見られる。そこで、分かりやすい文章の基本的な構成の仕方や事実と意見の意図的な書き分けなどを習得させることは国語科における確かな学力の育成につながると考える。

指導に当たっては、教材や芸術作品の表現上の特徴を見出させることで作品の主題をとらえさせたい。その際、物語文の分析の仕方を指導し、構成、表現方法などに注目させ、主人公の描かれ方等を吟味させることで、文学作品を鑑賞する能力の育成を図りたい。更に、鑑賞する芸術作品を複数の視点から分析させ、論理的な構成を生かした鑑賞文の書き方や話し方を習得させたい。また、単元を通して新出漢字や意見と事実の表現の違いの見分け方を繰り返し学習させ、言語知識や言語技能の習得の工夫を行い、鑑賞文内で効果的な表現として取り上げられることを実感させることで、社会生活に生きる言葉の力を身に付けた生徒の育成に取り組みたい。

3 単元の目標

- (1) 文章の展開に即して主人公の心情の変化を読みとり、主題をとらえ、鑑賞文を書く視点を理解することができる。
- (2) 絵画に描かれた人物の様子や象徴するものから主題をとらえ、主題に対する自分の考えを述べた鑑賞文を書くことができる。
- (3) 作品の主題に対する自分の考えを、材料を集めて、分かりやすく話すことができる。

4 単元の指導計画（全9時間）

過程	活動のねらい	主な学習活動	時数	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習目標と学習計画を確認させる。 意見と事実の違いを理解させる。 既習の作品を用いて物語の構造をとらえさせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 単元の学習目標と学習計画を確認する。 意見と事実の違いを理解する。 物語の構造を確認する。 	0.5	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイントを用いて例文を提示する。 物語文における転換点の特徴を確認する。
展	<ul style="list-style-type: none"> 教師の範読を聞かせ、初発の感想を書かせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 教師の範読を聞き、内容を一文でまとめる。 三文以上で感想を書き、グループ内の感想を交流させる。 	0.5	<ul style="list-style-type: none"> 主人公を中心として物語の内容を一文で書かせることで、鑑賞文における冒頭部分の書き方を指導する。 登場人物や表現の特徴、疑問など個々で焦点を絞って感想を書かせる。
	<ul style="list-style-type: none"> 前半部分を中心に人物設定をとらえさせる。 	<ol style="list-style-type: none"> おばあさんとの交流を絶ったことから前半の主人公の人物設定を考える。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 会話文から主人公が幼く、おばあさんの、自分への思いの深さに気づいていないことをとらえさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> 後半部分を中心に、主人公の成長とその変化をとらえさせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 文章の展開に即してシホの心情の転換点になった部分を考える。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 主人公の心情の変化から転換点をとらえさせ、「小さな手袋」が象徴することを考えさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> 物語の主題と社会生活に関わる出来事を照らし合わせ、考えをまとめさせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 物語の結末と第一段落を比較し、「雑木林」が象徴することについて考える。 作品の主題に関して自分の考えをまとめる。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 「雑木林」の描写から物語における主題を考えさせる。 文学作品における鑑賞文のモデルを提示し、鑑賞文の書き方を理解させる。
開	<ul style="list-style-type: none"> 提示された絵画を複数の視点を持って鑑賞し、作者の設定した主題を考えさせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 絵画から感じたことの根拠を考える。 作品の主題を考える。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 「落ち穂拾い（ミレー作）」に描かれた複数の人物の服の色や様子を比較させそれぞれの立場を考えさせる。 描かれた人物の様子から作品の主題をとらえさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞文のモデルを提示し、鑑賞文の書き方を理解させる。 鑑賞の視点をもとに、鑑賞文を書かせる。 鑑賞文の交流を通して、主題について考えを広げさせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 鑑賞文を書く上での留意事項を確認する。 主題に対する自分の考えを述べた鑑賞文を書く。 グループ内で交流する。 	1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 「小さな手袋」で書いた鑑賞文（モデル）を提示し、鑑賞文の概要を理解させる。 「説明の原則」に従って、鑑賞の視点を整理させる。 主題に対する考えが広がるような作品があった場合、指名して発表させる。
	<ul style="list-style-type: none"> 完成させた鑑賞文をもとに、主題に沿ってスピーチするためのメモを作らせる。 	<ol style="list-style-type: none"> スピーチメモをつくる。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 視点の転換を踏まえたスピーチをさせるために、モデルを示す。 (例) (Aという立場を選択した場合) もしBなら、・・・である。もしCなら・・・である。

展 開	・ スピーチメモをもとに、スピーチさせる。	16 スピーチメモをもとにスピーチし、相互点検をする。	1	・ 自己点検や相互点検が効果的に行われるように、点検表にポイントを示しておく。 ・ 付箋を用いて、メモに改善点を記入させる。
終 末	・ 絵の鑑賞文と短歌の鑑賞文を比較させる。	17 既習の鑑賞作文と、その違いを考える。	1	・ 鑑賞文の書き方の学習前と学習後を比較させることで、自己の変容に気付かせる。 ・ 既習の作品を提示することで、他教科でも生かせることを実感させる。

5 本時の実際

(1) 学習目標

視点を定めて作品を鑑賞したことをもとに、主題に対する自分の考えを述べた鑑賞文を書くことができる。

(2) 目標行動

① 絵画の中から見つけた根拠を「説明の原則」に従って並べ、論理的な構成の鑑賞文を書くことができる。

② 意見と事実を使い分けて主題に沿った自分の考えを書くことができる。

(3) 授業設計の工夫

① 新たに設けられた言語活動例（鑑賞文）の指導法の工夫

ア 作品を鑑賞し、文章を書くための視点の設定

物語的文章（教科書教材）の学習において、登場人物の設定や主題を象徴するもの、転換点の設定から作者の作品に対する意図を分析させ、作品の主題を考えさせた。これを受けて、芸術作品（絵画）でも、描かれた人物の様子、主題を象徴するもの、構図をもとに作品の主題を考えさせたい。

イ 根拠を明確にした文章構成の型を理解させるためのモデルの提示

構成と根拠の並べ方を理解させるために、既習の教材での作品をモデルとする。また、モデルの記述に即して段落構成ができるようワークシートを工夫する。

② 学習したことが生活に生きることを実感させる場の設定の工夫

学習意欲を向上させるためには、学習した内容が日常生活で生かせる場面を実感させる必要がある。そこで、本授業では、前時までの文学作品を通して学習した主題の分析の視点を想起させ、他教科等の鑑賞の学習に生かせることを実感させたい。また、学習材（絵画）の選定に当たっては、描かれた人物の対比から社会生活に結びつく主題が見いだせる具象画とした。

(4) 展 開

過程	主な学習活動	時間形態	指導上の留意点 ◎評価 ※授業のポイントについて
導 入	1 重要語句や意見と事実の見分け方について確認する。	3 一斉	○ 言語知識の習得のための指導の工夫 重要語句や事実と意見の見分け方
	2 前時までの学習を想起する。	3 一斉	○ 絵画を鑑賞した視点を想起させる。

導 入	<p>3 本時の学習目標と学習の進め方を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 文章の構成を工夫し、主題に対する自分の考えを入れた鑑賞文を書こう。 </div>		<p>○ 学習目標を提示するとともに、学習の進め方を明確にさせることで、見通しを持たせる。</p>
展 開	<p>4 鑑賞文の書き方について説明を聞く。</p> <p>5 提示された鑑賞文のモデルから、書く際のポイントを押さえる。</p> <p>6 鑑賞文を書く。 【構成】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 全体像 根拠 1 根拠 2 自分の考え </div> <p>7 グループ内で鑑賞文の交流を行う。 (1) 鑑賞文を交換する。 (2) 相互点検を行い、自分の鑑賞文を見直す。 (3) 代表者が発表する。</p>	<p>3 一斉</p> <p>7 個 ↓ ペア</p> <p>17 個</p> <p>10 グループ</p> <p>5 一斉</p>	<p>○ 鑑賞文を書く際の条件を明確にする。 (ワークシートの配布) 条件① 構成は「説明の原則」に沿って行うこと ② 主題に対する自分の考えを書くこと ③ 意見と事実の表現を使い分けること</p> <p>※ 「小さな手袋」での作文モデルを提示し、鑑賞文の概要を理解させる。</p> <p>○ 「説明の原則」を想起させ、前時までの視点を論理的に並び替えさせる。</p> <p>○ 書けない生徒には前時を想起させた板書を振り返らせ、構成を確認させる。</p> <p>◎ 「説明の原則」に沿った構成で鑑賞文を書くことができたか。</p> <p>※ 構成を意識しながら書かせるためにワークシートを工夫する。</p> <p>○ アドバイスは鑑賞文に関することに限定することを伝え、作文用紙の点検項目に従って記入させる。</p> <p>◎ 主題に沿った自分の意見を鑑賞文に書けたか。</p> <p>○ 聞き手である生徒に発表内容を書き言葉として意識させるために、発表者に教材提示装置を使用させる。</p> <p>○ 主題に対する考えが広がるような鑑賞文を、教師が指名して発表させる。</p>
終 末	<p>8 本時のまとめを聞き、次時の意欲を持つ。</p>	<p>2 一斉</p>	<p>・ 次時の学習内容を予告する。</p>